

研究テーマ 阿波晩茶の抗アレルギー作用  
所属氏名等 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 特任教授 福井裕行

### 研究シーズ概要

アレルギー疾患の発症メカニズムとして疾患感受性遺伝子発現の亢進によることが明らかとなった。アレルギー疾患の治療には抗ヒスタミン薬が用いられるが、この治療薬はひとつのグループの疾患感受性遺伝子発現を抑制することができる。しかし、もうひとつの疾患感受性遺伝子発現を抑制することにより、たいへん強い症状改善が達成できることが分かった。そして、阿波晩茶がその遺伝子抑制作用を持つことを明らかにした。

(想定される)応用範囲  
／今後の展望

ズバリ、花粉症を始めとする、アレルギー疾患の症状を非常に改善することができる。阿波晩茶の有効成分と薬効発現機構の研究が進展しており、阿波晩茶の研究を生かした新規アレルギー疾患治療薬の開発が可能である。さらに、阿波晩茶の有効成分の薬効はアレルギー疾患のみならず、糖尿病などの慢性炎症性疾患にも応用可能である。

